

「漢文訓読の方法」

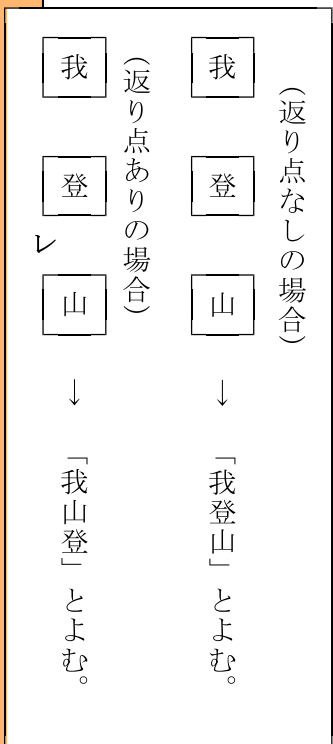
組 番 氏名

漢文の訓読の方法には、三つの原則があります。

その第一は、「上から順番に読む」ということです。「なんだ、そんなことか。」と思う人もいるかもしれませんが、世の中には、いろいろな言語があつて、中にはアラビア語のように、右から順に読んでいくものもあつたり、縦書きをするのに左の行から読むなんていう言語があつたりもします。日本語のように、縦に書いても横に書いても読める、なんていう言語の方が、むしろ珍しいのです。

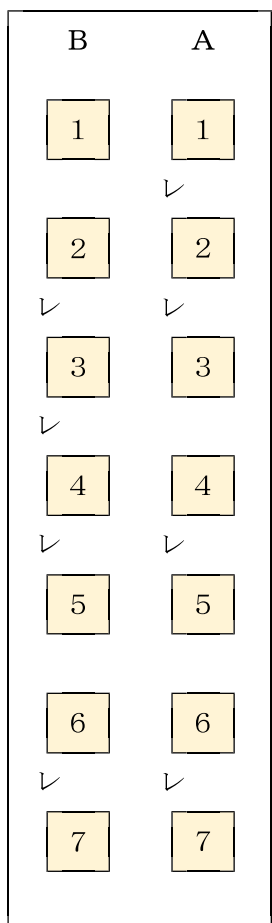
第二の原則は、漢文にふられて「返り点」といわれる記号の指示に従つて読むということです。返り点には「レ点」「一・二点」「上・下点」などがあります。

☆「レ点」とは、レの形をした返り点のことをいいます。



このように、「レ点」があるときには、第一原則の「上から順番」ということがはずされて、上下を逆に読むこととなります。

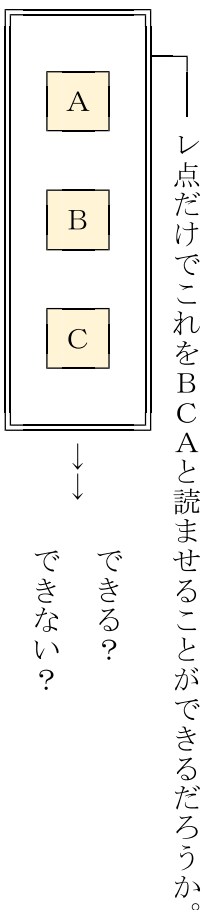
※次のようにレ点が入っているときには、どのように読むのが正しいでしょうか。



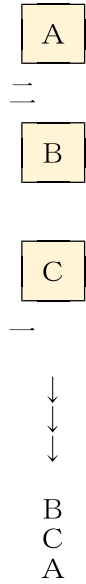
答え	
A	(3 2 1 5 4 7 6)
B	(1 5 4 3 2 7 6)

☆「一・二点」は、レ点では手に負えないときに使います。

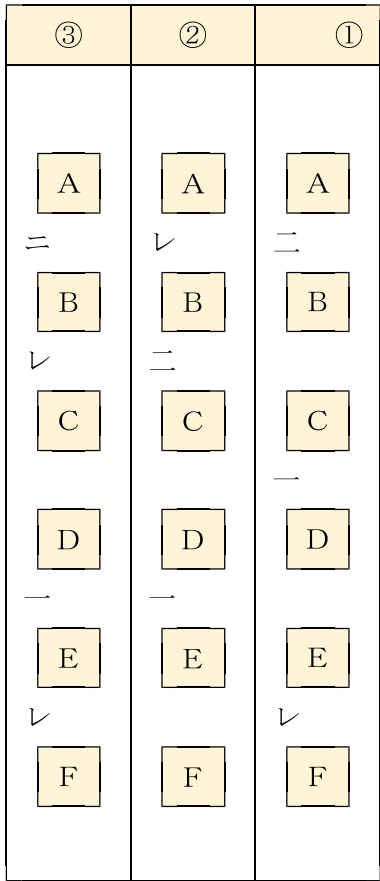
レ点では右で扱つたように、一文字づつしか戻ることができません。ですから、次の「ABC」を「BCA」と読もうとしても、レ点だけではどうしようもないのです。「一・二点」は、このようなどきに使われます。その能力は、「間に文字をはさんで二文字以上戻ることができる」ということです。



さて、では「一・二点」を使ってやってみよう。左の図を見て下さい。
 「原則一」を意識しながら、上から読むのだね。ところが、一番上にある文字の左下には「二」という文字がある。これは、「一」の文字を読んだらすぐにここにある文字を読むということだから、いきなり最初から読むではいけない。そこで、その下の字を読むことになる。さらに、「原則一」に従って、その下を読もうとすると、「一」のついた字がある。「二」のついた字を読まなければ、「二」にはいけないわけだから、こういう字は読まなければいけません。
 結局、このように返り点がふつてあつた場合には、「BCA」と読むのが正しいということになります。

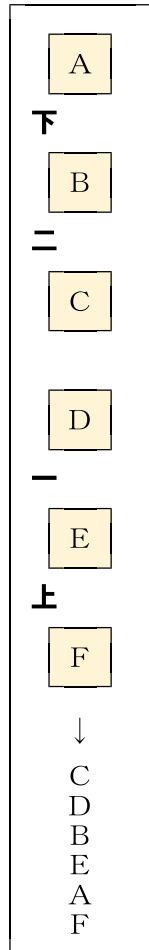


(次の場合は、どんな順序で読んだらよいのだろうか。)

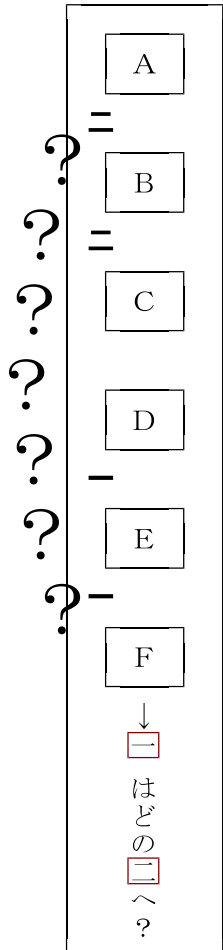


答え ① ≡ BCADFE ② ≡ CDBAEF ③ ≡ CBDAFE

☆「上・下点」とは・・・一二点と変わりませんが、一二点をはさんで戻りたいときに使います。



これを、「僕はそんなものなしで表現してやる。」などといって頑張ろうとすると、次のような表現になつてしまはずです。
 (左は失敗例)



第三の原則は、「送りがなを上手に入れながら読む」ということです。こんなものは問題にならないと思う人がほとんどでしょうが、漢文訓読ではつまづきやすいところです。返り点と送りがなを同時に頭の中で処理するのは、結構骨の折れるものです。最初のうちは大変ですが、何度も読み返して、すらすら読めるようにして下さい。特に、漢文では、歴史的仮名遣いをしますので、読み間違いのないように。